

# 霊とマスク

——コロナ禍における精神世界の実情——

伊 藤 耕 一 郎

はじめに

## 1 論文要旨

筆者の研究では、2017年頃から、それまでは個別に活動していた精神世界関係者が霊性にかかわる目的のために集い、協働のため組織化するという動きが確認されるようになった（伊藤 2020：13-19）。したがって本論文では、これらの新しい形態を「霊性にかんする協働組織」と名づけて、その実態を分析してみたい。

筆者が接触を持つことができた協働組織は、会員が広範囲にわたってLINE や Facebook などの SNS を通して交流し、神社や地域の聖地などを活動拠点にしている。その地域に密着した世話人が存在しているが、世話人は協働組織の統括者ではなく、人々が集うための場所を提供したり、連絡関係の中心となっているだけで、あくまでも「世話人」の域を超えていない。

これらの協働組織は、「聖地の保守管理」や「金星のエネルギーを地下に落として地上を安定させる」などの具体的な目的を持って集まっており、この目的さえ同じであれば、その技法や思想背景は問われない。一例をあげれば、チャネリング<sup>1)</sup>を行う会員であってもハイアーセル

---

1) 前世や未来の自分、地球外生命体など、別の次元の霊的な存在と交流・交信（日本神霊学研究会 2019：221-222）

フ<sup>2)</sup>とのチャネリング、守護天使とのチャネリング、先祖霊とのチャネリングなど対象は違っており、またタロットであっても使用するタロットの種類が違ったり、同じ種類のタロットであっても扱い方が違うなど、同じ精神世界の中で技法や思想が全く違う者同士が集まっている。

また、これらの協働組織は、新型コロナウイルス感染症対策に関しては行政の方針に対して概して批判的であり、定期的集まってヒーリングやリーディングのために対面で接触することに抵抗を持たず、平常時と同程度の換気はするが感染防止のための換気を行うこともない。

その姿勢を特徴づけるものの1つに「マスクを着用しない」ということがある。公共交通機関に乗ったり、コンビニエンスストアなどの店舗に行く時の為にマスクは所持しているが、これは「周囲を怖がらせないため」、「反社会的にみられないため」であり、いずれの協働組織においても自分たちの集まりでは、誰一人としてマスクを着用していない。

さらに彼らは、「ワクチン接種」にも反対しており、集まった際にはいつも「ワクチンを打ってはいけない」ことと「ワクチン開発には裏がある」ということについて論じ合っている。一方、同じ霊性を扱っていても、宗教団体では、神道における鈴紐の撤去や手洗場の閉鎖、キリスト教会における礼拝の取りやめやオンライン化、讃美歌を歌わないなど、徹底した感染対策がなされている。

本論文は霊性にかんする協働組織への現地調査を中心に、精神世界関係者がコロナ禍をどのように捉えているのかを明らかにすることを目的とし、その上で宗教団体との比較を通して、現代における両者の思想の違いについて論じたものである。

## 2 研究手法

上記を検証するために、本稿では現地調査・聞き取り・ドキュメント調査などの質的研究による分析を主な研究手法として用いた。また、これに

---

2) 高次元の自己の魂。全てを知っており導いてくれる存在。魂の声ともいわれる  
(日本神霊学研究会 2019: 255)

加えてアンケート調査や、実際のコロナウィルスに対する対応や状況を類型・数量化し、量的研究による分析を行い、研究全体の補強を行った。

### (1) 質的研究

#### 1. 現地調査

研究対象の活動内容について、イベントや集会に参加し実情を観察し、これを記録した。

#### 2. 聞き取り（対面・電話など）

霊性にかんする協働組織の会員ら、及び対象とした宗教団体の教職員に 対して、聞き取りを行った。

#### 3. ドキュメント調査

精神世界に関しては、コロナ禍とマスクやワクチンにかかわる精神世界関係著書、及びブログや WEB ページなどのインターネットを使った調査を行い、宗教に関しては、宗教団体が発行する機関誌や WEB ページの調査を行った。

### (2) 量的研究

#### 1. アンケート調査

精神世界関連事業者、及び精神世界関連ブログの管理者に対して、SNS やダイレクトメールなどによるアンケートを行った。

#### 2. 数量化

宗教団体のコロナウィルスや、コロナ禍への対応状況を分類、これを数値化した。

## 第1章 霊性にかんする協働組織に対する現地調査

筆者は、霊性にかんする協働組織の調査を、5つの組織に関して行った<sup>3)</sup>。それぞれの組織概要と活動は下記の通りである。

---

3) 調査は関西大学文学研究科院生協議会「学術調査に関するガイドライン及び倫理

## 1 一般社団法人たまや（岡山県 津山市）

### (1) 組織概要

この協働組織は、岡山県津山市加茂町にあるサムハラ神社奥院を中心に活動している。この地域に住んでいる世話人A（50代 女性）が、パワースポット探索でこの地を訪れていた精神世界サロン<sup>4)</sup>経営者のB（40代 女性 東京都在住）と、同神社の訪問者のマナーの悪さやゴミの放置による環境悪化について話し合い、Bがネットで保護活動と呼びかけたところ、60名を超える賛同者が集まり、神社の清掃や整備のボランティアや、補修のための寄付が行われるようになった。寄付金が一定額以上集まったのをきっかけに、2017年11月22日、一般社団法人として登記がなされた。

### (2) 活動

この協働組織の活動は、定期的に行われている「世話人及び会員によるサムハラ神社の案内とエネルギーワーク<sup>5)</sup>」、「清掃や施設の修繕活動」、「精神世界関連イベント」の3つを柱としている。

特にサムハラ神社の案内は、2019年の調査の時点では1日に2～3組だったが、2020年になってからは予約者が増え始め、8月末には20人を超える日もあり、9月12日の時点では10月末まで予約が埋まっていた<sup>6)</sup>。

イベント活動は、会員の発案・主催によって行われ、Aはあくまでも世話人として動いている。2020年9月12日に行われた、音楽療法家C（50代 女性 東京在住）が講師をつとめるシンギング・リンセラピー<sup>7)</sup>の体験イ

---

※「理規定」(<https://drive.google.com/file/d/1efuUvwTSIKv5XyENqQ7mcxya9tD50Wlx/view?usp=sharing>)に基づいて行い、本ガイドライン制定前の調査に関しては本稿執筆時にこれに従ってチェックを行った。個人名については基本は匿名とし、参考文献の著者やその中に実名で記されている人物についてはそのまま記している。また属性については調査時のものを記載している。

4) 顧客に精神世界の術式を行ったり、技法講習を行う事業所。

5) 宇宙と地球と繋がりが高次元に覚醒するための動作（しろくま 2020：136/158）。

6) Aへの聞き取りにもとづく（2020年9月12日）。

7) ボウル型の共振共鳴楽器でもリラクセス効果から代替医療や音楽療法にも用いられている（『セラピスト』2020年10月号：73-82）。

ベントも、講師と面識があった会員によって企画され、Aが地域の公民館を借りられるように手配し、実現したものである。

## 2 大杉神社を守る会（滋賀県 彦根市）

### (1) 組織概要

この協働組織は、彦根市武奈町にある大杉神社を中心に活動している。大杉神社には武奈町の鎮守神が祀られていたが、武奈町が廃村となったので、30年前に神社の維持・祭祀のために大杉神社奉賛会が設立された（岡崎 2018：6・28）。2006年に奉賛会を受け継いだ現世話人D（50代 男性）が、2014年から案内ツアーを開始。2017年頃から「大杉神社を守る会」の名称が用いられるようになり、2018年には精神世界関係者を中心とした協働組織として新規スタートしている。

世話人が、代表取締役をつとめる仏壇屋の2階がサロンになっており、ここで各種セミナーが行われている。

### (2) 活動

この協働組織では、「神社とそこまでの林道の定期的な清掃整備」、「案内ツアー」、「神社での祭事とエネルギーワーク」、「精神世界関連セミナー」が行われている。

現在 WEB 上では、コロナウィルス対策として新規の参加者への案内はしていないが、世話人と会員による清掃・林道整備の作業は定期的に行われている。祭事は不定期に行われており、WEB では案内はされていないが、会員が新規参加者を連れてくることが多く、入会希望者がいれば、これを断ってはいない。2020年の春以降、祭事への新規参加者が多くなり、会員は増加傾向にある。

祭事の後にはサロンに移動し、そこで精神世界技法のセミナーと、情報交換が行われている。

### 3 禊カフェ（兵庫県 西宮市）

#### (1) 組織概要

この協働組織は、兵庫県西宮市にある越木岩神社を中心に活動している。2015年に石川県の神社コンサルタント<sup>8)</sup>が Facebook で呼びかけ、荒廃地同然であった同神社を再生する「禊カフェプロジェクト」を全14回のクールで行い、これに参加していた女性（40代）が、異業種交流会でこの話をしたところ、同神社から徒歩1分の所に住んでいる精神世界関連事業者で、現在の世話人であるE（50代 男性）が参加。同氏の呼びかけにより、多くの精神世界関係者がこの活動に賛同、参加者が増え、2016～2017頃に現在の形となった。また同神社の神職の中には、積極的にこの協働組織の活動に賛同する者もあり、境内で時折情報交換が行われている<sup>9)</sup>。

世話人宅の一室がサロンになっており、清掃活動の後には、ここで情報交換が行われる。また、物理学の研究者や、理系の大手企業に勤務していたF（60代 男性）、薬剤師の資格保持者G（60代 男性）など理系の会員が多いのも特徴である。

#### (2) 活動

この協働組織の活動は、「神社の清掃」、「情報交換・交流イベント」、「世話人が主催するオンラインサロン」からなっている。

オンラインサロンには「宇宙お茶会」という名称が付けられており、日本だけでなくドイツなど海外在住の日本人が、これに参加している。

神社の清掃は毎月行われており、社務所職員が普段掃除をしない頂上付近や、磐座、神楽殿の裏側などの清掃を中心に行い、清掃修了後にはEのサロンに集合してカレーを食べながら<sup>10)</sup>、会員同士が1ヶ月の報告を行っ

---

8) 2015年当時、天啓を受けて荒廃している神社などの建て直しを行っていた。現在ハートグラム（性格診断）インストラクター・和魂カウンセラー協会代表（50代男性）。

9) 現地調査（2020年12月12日）。

10) カレーは全てオーガニックのもので市販のルーを使わずに地球との「調和」が保たれるように作られている（Eへの聞き取りにもとづく 2020年8月8日）。

たり、互いの技法を試す時間となっている。

また、清掃とは別に、会員がキャッチした宇宙からのメッセージを伝えるためのイベントが行われたり、近所の人との交流も兼ねた利き酒やワインの試飲会、会食なども企画されている。

#### 4 レムリア会議（北海道 札幌市）

##### (1) 組織概要

この協働組織はH（50代 男性 札幌市在住）が、2015年の秋に、夕張市に所在する滝の上公園へ旅行した際に、宇宙から地球変革にかかわる啓示を受け、妻（40代 女性 札幌市在住）に話したところ、妻と Facebook で繋がりのある精神世界関係者のI（40代 女性 富良野市在住）らが、富良野市の宗教施設の会議室に仲間を集めHが受信したメッセージを読み解く勉強会が行われるようになり、2016年にHとIを共同世話人として立ち上げられた。Hが言うには、「自分はアイヌの末裔で、アイヌは宇宙と昔から繋がっているために、メッセージをキャッチしやすい」とのことであった。

##### (2) 活動

この協働組織の活動の中心は、富良野市で行われる「Hの受けた啓示を読み解く会」と、夕張市（滝の上公園）と札幌市（札幌大神宮）で、定期的に行われるエネルギーワーク講習会の2つで、宇宙からの啓示の受信や、エネルギーワークの指導はHが行い、活動拠点となっている富良野市の宗教施設との顔つなぎや参加者との連絡をIが受け持っている。またエネルギーワークの講習では、エネルギーを溜めて必要な場所へ送ることもある<sup>11)</sup>。

Hの話では、「北海道には、東日本大震災以降のアセンションで<sup>12)</sup>、ア

---

11) 直近では大統領選挙中のトランプへエネルギーを送ったという（Hへの聞き取りのもとづく2020年11月22日）。

12) 精神世界では2012年前後に地球が次元上昇と言われており、天変地異もそ

イヌの血に目覚めた者が多く出てくるようになり、同様の会議が複数存在する」ということで、2020年からは、リモートの普及に伴い、他の協働組織との合同会議を行うこともあるという。

## 5 NPO 法人心髄研究会 SEW（滋賀県 東近江市）

### (1) 組織概要

SEW は、東近江市を中心に、ブース出展型イベントの主催や、地元との交流会を主催していた精神世界関連事業者のJ（40代 女性 滋賀県在住）が、資格ビジネス的同業者の増加や精神世界が抱えている問題について、「社会から受け入れられる精神世界業界になる必要性」をうったえ、同様の問題意識を抱えていたK（40代 女性 三重県在住）がこれに賛同して立ち上げた協働組織である<sup>13)</sup>。会員は精神世界関連事業者が大半だが、社会との接点を重要視するため、役員会は、元行政関係者や会社経営者などで構成されている。会員が行う技法や持っている思想は違っているが、「社会に受け入れられるため」という同じ目的をもって集まっており、総会や理事会の議案もこれらが中心となっている。

### (2) 活動

2019年には、会員事業者を集めた精神世界業界の現状についての勉強会や、協働組織の周知のためにブース出展型イベントを開催、また同年11月には三重県津市が後援する、「大切にしたいわたしの体とココロ～がんの不安へのアプローチとリラクゼーション」で、シンギングボウル<sup>14)</sup>を使ったセラピーをボランティアで行っている。2020年の5月～7月にかけては、リモートを使用した精神世界技法によるメンタルケアとして、「キャンドル瞑想」、「コードカットイメージワーク&クラウンディング<sup>15)</sup>」を行い、

---

ㄨの兆候とされていた（坂本 2009：14・115-116）。

13) 2019年8月8日認証（滋賀県）、2019年8月20日設立登記。

14) 仏教で用いられる大型の鉦と同形状の金属製の楽器で、癒しや浄化の作用があるとされている。

15) 宇宙と自分と地球とを繋げ、不要なものを断ち切っている技法（しろくま ♪

オンライン講演会「葬儀現場・精神世界技法者・宗教者の視点から見たコロナ禍」なども行っている。また10月には、医療関係者による感染対策動画の配信もしている。

Kは「不安な状況にある人への NPO としてのアプローチと、会員の精神世界技法者に、自分の技法が現実社会でも役立つという自覚を促せたと思う」と話しており、「現実的な対応（感染対策動画配信）も、不安を取り除くという意味では、霊的なものを扱っている」という認識を示していた<sup>16)</sup>。

## 第2章 精神世界とマスク

第1章で少し触れたが、霊性にかんする協働組織の特徴として「マスク着用の否定」がある。本章では精神世界関係者がマスク着用をどう捉えているかを、第1章に示した研究手法により考察していく。

### 1 霊性にかんする協働組織とマスク

たまやの世話人はマスク着用について情報発信をしていないが、実際に世話人に案内されてサムハラ神社を訪れる人は、誰もマスクをしていない(写真1)<sup>17)</sup>。

また、この協働組織の主催する講習会で講師を務めたCは、「5G も身体に悪いとされているが、IT 革命の時代の流れが止められないのと同様に、宇宙の摂理で起きたことは止められない。むしろ時代の変革期には人の側が、それに対応できるかどうかの方が重要である」と前置きした上で、電子レンジを例にとって、「電子レンジが登場したときには、電子レンジで調理した食品は、電磁波によって変質しているので危険という話が広がったのが良い例で、要は人がそれを受け入れられるかどうかの問題」、

---

↘2020：22/157・87/158)

16) Kへの聞き取りにもとづく(2020年12月3日)。

17) 現地調査(2020年9月12日)。



(写真1 筆者が撮影)



(写真2 筆者が撮影)

「コロナウィルスが人工的な兵器であれ自然発生したものであれ、宇宙意識の介入がなければ蔓延は許されない。それに抗う行為よりも、(精神世界的な技法による) ケアをしながらウィルスを受け入れていくことが時代の変革を受け入れるということ」だと言う。マスクをすることは宇宙の摂理に抗うことであり、事態を悪化させるとし<sup>18)</sup>、Cが講師をつとめたイベントでも、マスク着用者はいなかった(写真2)<sup>19)</sup>。

Bも、「コロナ・パンデミックという時代の移行期に自分の鞆の中にマスクを常備するのか、勇気と希望を常備するのか、若い人たちには冷静になって欲しい」としていた<sup>20)</sup>。

大杉神社を守る会のDは、コロナウィルスの発生について独自の見解をもっており、「コロナは漢民族を滅ぼすためのウィルスだった。それに気付いた中国政府が武漢の研究施設に持ち込んで、対アングロサクソンに改造中に流出してしまった。だからモンゴロイドの血が強ければ感染しても発症しないので着用は不要」としており、日本に発症者がいるのは、「マスクをしなければならないという気持ちが、世界の感染者と波動が同調して、発症してしまっている」ということであつた<sup>21)</sup>。筆者が調査を行った、この協働組織が主催するイベント「大杉神社 大祭」でもマスク着用者は

---

18) Cへの聞き取りにもとづく(2020年9月12日)。

19) 現地調査(2020年9月12日)。

20) Bへの聞き取りにもとづく(2020年3月19日)。

21) Dへの聞き取りにもとづく(2020年8月11日)。



(写真3 筆者が撮影)



(写真4 筆者が撮影)

いなかった(写真3)(写真4)<sup>22)</sup>。

禊カフェに理系の会員が多いことは、先に述べた通りである。このため、マスク着用の否定理由についても、理系的なアプローチがなされていた。薬剤師の資格をもっているGは、「マスクをしていれば、免疫力が落ちてワクチン接種で死亡する」と言う<sup>23)</sup>。また理系企業の開発部にいたFは、「マスクを2時間していれば、ウィルスよりも有毒な雑菌がマスク内に繁殖する」とし、マスクの着用を否定していた<sup>24)</sup>。

世話人のEは、「宇宙お茶会」で、「マスク等で、感染から逃げようとするほど、ウィルスは変化し、毒性が強くなる」としており<sup>25)</sup>、12月の同会でも、ドイツ在住の日本人医師(50代 女性)が、同様のことを述べていた<sup>26)</sup>。

また、世話人と会員の調理師が中心になった、「宇宙からのメッセージを伝えるイベント」(ふぐナベ)には関係者が20人以上集まっており、密集状態であったが、誰一人としてマスクを着用していなかった(写真5)<sup>27)</sup>。

レムリア会議の世話人Hは、「地球の変革についていけるかどうかがコロナウィルスによって試されている」とし、「現在地球は、地上を暴力的

---

22) 現地調査(2020年8月11日)。

23) Gへの聞き取りにもとづく(2020年8月8日)。

24) Fへの聞き取りにもとづく(2020年9月5日)。

25) Eへの聞き取りにもとづく(2020年11月15日)。

26) 開催日 2020年12月6日。

27) 現地調査(2020年10月31)。



(写真5 筆者が撮影)

に統合支配していた男性的なアトランティスの時代から、宇宙意識に融合されたレムリアの時代へと遡っており、コロナウィルスと共生できるかどうかは、宇宙意識から人類に課せられた試験、「ウィルスに積極的に感染することが、1番の宇宙意識との融合に近いところにあるが、最

低でもマスクを外すところから始めないといけない。マスクの着用は宇宙の愛を拒むことになる」という見解であった<sup>28)</sup>。

またIが懇意にしている宗教団体の会議室は、コロナウィルス感染防止のために、外部への貸し出しを一時中止していたが<sup>29)</sup>、「北海道では、宇宙からの愛に目覚め始めた人々が増えてきており、施設を借してくれている宗教団体の人にも、マスク着用をしない人が増えてきている。勉強会(Hへの啓示を読み解く会)も、もうすぐ再開できる」と話していた<sup>30)</sup>。

SEW は、他の協働組織と若干立ち位置が違う。他の協働組織が、「世話人の意見≠協働組織の意見」であるのに対して、SEW では役員や会員の意見と NPO 法人としての見解は別である。

Jは理系の大学を卒業後、生物関係の企業の研究室に勤務しており、その視点から、「マスクをしたところで、雑菌の繁殖力の方が強い」、「マスクをすることによって、人類全体としての抵抗力は落ち、ウィルスもまた変化を続けるので、無意味どころか有害とさえ言える」としており、この意見を支持する会員も少なからずいる<sup>31)</sup>。

しかし、役員会では「そのような見解を NPO 法人としては出さない、内輪以外ではそのような話をしない(ブログなどにも掲載しない)」とい

28) Hへの聞き取りにもとづく(2020年11月22日)。

29) 現地調査(2020年11月21日)。

30) Hへの聞き取りにもとづく(2020年11月22日)。

31) Jへの聞き取りにもとづく(2020年8月13日)。

う取り決めがなされている。この理由については、「精神世界の技法は、人や社会に安心を与えるものであり、社会に受け入れられる存在であることが SEW の理念、マスク不要論はあきらかに社会の論調に反しており不安を煽るだけ、むしろマスクがあっても無くても安心できるような技法の提供や情報発信をしていくべき」ということであった<sup>32)</sup>。

このため、協働組織としては先述した通り、リモートで精神世界技法を用いたメンタルケアを行ったり<sup>33)</sup>、医療関係者を招いて「家族で出来る感染対策」（イラスト 1）のオンライン講演とその動画をアップするなど、「恐怖を社会から少しでも減らす」ことを現時点での活動目標としている。



（イラスト 1 NPO 法人心脳研究会 SEW 提供）

## 2 精神世界とマスク

今回調査した組織だけでなく精神世界全体を見渡すと、WEB 上ではマスクが笑顔を失わせ波動が乱れるといった記事や<sup>34)</sup>、『「マスクをして3密を避ける！」なんて奴隷制度への第一歩」<sup>35)</sup>といったブログ記事が散見さ

32) Kへの聞き取りにもとづく（2020年11月22日）。

33) NPO 法人心脳研究会 SEW 公式 WEB ページ「活動実績」（<https://www.sew19.com/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%AE%9F%E7%B8%BE/>）、閲覧日2020年11月23日。

34) 今からスピリチュアル「症状のないときマスク不要」（<https://note.com/imakaraspiritual/n/nf1476abd336a>）、閲覧日2020年12月14日。

35) ヒーリングスピリチュアルカウンセリング 魂のあなたを生きる為に！「【マスクは奴隷の証】マスクを皆がしている異様な光景」（<https://www.roseriche.com/entry/mask-dorei>）、閲覧日2020年12月14日。

れた。

医師の松久正は、意識とコロナウィルスの関係について、「通常は、コロナウィルスを意識するだけで人口の95%が感染しています」（松久 2020b：57）、としさらに人類は（暴力的）支配を受けており、ウィルスがマスクの網目を通してしまふことを分かっているが、「マスクをしないといけない」という集合意識が、支配者に利用されており、マスクをしている人について、「あんなのは低次元の人間の象徴的な姿です」（同：122-123）と指摘した上で、人類は（支配から解放されるために）高次元の DNA に書き換えられるべきで、コロナウィルスに対して「いらっしやい。ようこそ。お友達になろう。私をすてきに書き換えてね」と迎え入れることによって DNA の書き換えが可能だとしている（松久 2020a：316/648）

また、個人的にはマスク着用を「不要」としながらも、「否定」しないスタンスもある。笑顔をキーワードにして、精神世界で活動している福田純子は、笑顔の純度による心の浄化やツキの巡りについて著書の中で語っており（福田 2010：253/1127-267/1127）、この延長線上で、コロナウィルスに対しても、笑顔で免疫をアップさせていればマスクの着用は不要としつつも、今は世界中がマスクを着用している時代なのだから、ファッションとして笑顔でマスクをして楽しむのも良いという内容の動画を配信している<sup>36)</sup>。

一方、事業として対面での営業を行っているサロンでは、感染対策を前面に出している事業所も多い。紅葉スピリチュアルサロン（東京都）ではブログに、「お客様につきましては、ご来店時にマスクのご着用をお願いいたします。Kreha（経営者）もマスクを着用し、ウィルス対策を万全にしまして皆さまをお迎えいたします」と記載しており、サロンにおける感染防止対策についての説明を細かく行っている<sup>37)</sup>。

36) YouTube「福田純子のうっかり幸せチャンネル-スピリチュアルの人はマスクしないって本当?」(<https://www.youtube.com/watch?v=15iYDvSg3A0>)、閲覧日 2020年12月7日。

37) ウィルス対策のご案内及び既にご予約済みのお客様へのご案内「紅葉スピリチュアルサロンブログ」(<https://www.kreha-world.com/blog/178.html>)、閲覧日

この事業者の対応について、筆者は、他の精神世界関係者のブログの記事に、「差別されたら怖いというか、人間の性や無知って怖いという感じ」<sup>38)</sup>と記されていることや、「営業するためにはマスクをしなければならないという同調圧力が、事業者に影響を及ぼしている」という新聞記事から<sup>39)</sup>、精神世界関係者や事業者が社会的な配慮（あるいは圧力）からマスクを着用しているのではないかという仮定をたて、精神世界関係のブログ管理者や、精神世界関連事業者に対して、アンケートを行った<sup>40)</sup>。

その結果、「感染防止にマスクが有効だ」という回答が52%と、マスクが感染予防に効果的だと半数の人が考えてはいるものの、「あなたはマスクを着用していますか」という問いに対しては、普段から着用している人は全体の30%で、「社会的な配慮が必要な場所以外では着用していない」が55%、これに、「周りの目が気になるから着用している」7%、「同調圧力で仕方なく着用している」1%、「着用していない」2%を加えると、7割弱の人が、「感染の防止にマスクは役立つと考えているが、自ら着用には否定的」であることが分かった。

### 3 小括

霊性にかんする協働組織の集まりにおいて行った現地調査及び聞き取りと、ドキュメント調査、アンケート調査から考察する限り、精神世界では、「ウィルスの感染防止にマスクが有効である」かどうかと「マスクをして感染を防ぐ必要があるかどうか」は別と捉えられているように見受けられる。これは、霊性にかんする協働組織から誰一人として、「感染を止めな

---

↘2020年12月14日。

38) 註33に同じ。

39) 「〈コロナ禍の同調圧力〉前編 行動制限どこまで必要?」『中日新聞』、2020年10月4日。

40) 2020年12月10日-2020年12月15日「コロナ禍でのスピリチュアル（セクション1-マスク着用に関して）」（メールや SNS 等インターネットを利用し精神世界ブログ管理者及び精神世界関連事業者に対して行った）、有効回答102、設問は「年代」、「性別」、「あなたは感染防止にマスクは有効だと思いますか」、「あなたはマスクを着用していますか」の4項目。

ければならない」という発言が無かったことから伺い知れる。

しかし、今回現地調査・聞き取りを行った協働組織は、精神世界の中でもこれまでに見られなかった新しい形態であること、アンケート調査の「社会的配慮が必要でない場所」が自宅を指すのか、精神世界の人々が集まる場所を指しているのかが明確でない点、またアンケート調査へ回答をしていない層も考慮にいと、「精神世界の人々はウィルス感染を防ぐ必要がないと考えている」と結論付けるのは早計である。第3章を踏まえた上でこれらについての検証を行っていく。

### 第3章 精神世界とワクチン・コロナ禍

ここまで、精神世界とマスク着用について、調査結果に基づく実態把握を行ってきた。本章では、精神世界と「ワクチン接種の拒否」、そして「コロナウィルスをどう捉えているのか」についての実態を確認し、これがマスク着用の否定とどう繋がるのかについて考察を行う。

#### 1 精神世界とワクチン接種拒否

霊性にかんする協働組織の調査において、マスク着用に関しては、「不要」という点ではどの団体でも一致しているものの、その理由は各協働組織によって若干の違いがあった。しかし「ワクチン接種」についての見解では、全ての協働組織でほぼ同意見であった。

Dは、「今開発されているワクチンは、有毒物以外の何ものでもなく、変化を続けるウィルスには無効、コロナに乗じて悪いことを考えている奴らが、マスクをしなければならないという恐怖をばらまいている」とする<sup>41)</sup>。

Eは11月の宇宙お茶会の中で、「マスクをしないといけないという脅迫概念が、恐怖心を煽り、ワクチンを求めさせ、接種と同時に量子レベルのチップが埋め込まれてしまう」とした<sup>42)</sup>。12月の同会ではドイツ在住の医

---

41) Dへの聞き取りにもとづく(2020年11月22日)。

42) 開催日2020年11月15日。

師が、「ヨーロッパでもワクチンによるチップの埋め込みを分かっている人は、現状に脅威を感じている」と発言し、参加者全員が、ワクチンの毒性も危険だが、同時に埋め込まれるチップにこそ注意が必要だ、と意見を一致させていた<sup>43)</sup>。

また、宇宙からのメッセージを伝えるイベントでFは、「ワクチンに混入される666の刻印が打たれたチップによる人類家畜化計画」について述べており<sup>44)</sup>、Hも、「ワクチンによって混入されるチップには666の刻印があり<sup>45)</sup>、私たちを統合支配しようとしている」、「これ（チップによる支配を受けること）は宇宙から示された人類の進むべき道ではない」、「マスクは、ワクチンとチップによる支配構造のための恐怖を煽る第一歩である」と話していた<sup>46)</sup>。

アンケート調査「コロナ禍でのスピリチュアル（セクション2-ワクチン接種にかかわる質問）」では<sup>47)</sup>、「ワクチン接種を受けたくない」という人が全体の90%を占め、精神世界関係者は、ワクチン接種に強い抵抗感を持っていることが分かった。さらにこの90%を対象に拒否の理由を尋ねたところ、「安全性がハッキリしない」という回答が44%と最も多かったが、それに次いで、「ワクチンに何か裏を感じる」が34%で、これに「ワクチンがビジネスになっている」の5%を加えると、ワクチンの安全性ではなく、ワクチンの背景にあるものに対して不信感を抱いている人が4割弱いることになる。

聞き取りやドキュメント調査の結果と合わせて考えると、精神世界関の中の大半が、マスク着用を否定しているだけでなく反ワクチンである。反

---

43) 開催日2020年12月6日。

44) Fへの聞き取りにもとづく（2020年10月31日）。

45) 666は聖書「ヨハネの黙示録」に出てくる獣（悪魔）の数字で、この刻印がないと経済活動ができなくなるとされている（ヨハネの黙示録13章17節-18節）。

46) Hへの聞き取りにもとづく（2020年11月22日）

47) 2020年12月10日-2020年12月15日「コロナ禍でのスピリチュアル（セクション2-ワクチン接種に関する質問）」、有効回答数102、設問は「あなたはワクチン接種を受けたいですか」、前記設問で受けたくないと回答した人92人に「ワクチン接種を受けたくない理由は何ですか」を設定した。

ワクチンの人々の中には、「ワクチンと同時に刻印がうたれたチップが混入され、それによって人類が統合・支配される」など、ワクチンには何か裏の事情があると考えている人が、少なからずいることが伺える。

## 2 ワクチンと陰謀論

Jは、「現代はゼロ・ポイント・フィールド<sup>48)</sup>で物事を見る必要があり、(支配者による)統合の時代から、(宇宙意識との)融合の時代へと進んでいく」、「(支配者は)マスクの必要性を訴えて恐怖を煽ったあとで、ワクチンを全ての人が打つように仕向けて、宇宙意識との融合を断ち切ろうとしている」と言う<sup>49)</sup>。

Jはこれを、「ビル・ゲイツの支配構造」によるものだとする。ビル・ゲイツ財団がワクチンを使って世界を誘導するという陰謀論は、「ビル・ゲイツ財団がワクチンによって世界人口を抑制しようとしている」など、以前から語られており(船瀬 2018: 860/2420)、とりわけ、今回Jが言ったことは驚くようなことではない。

松久は暴力的支配者について、「それはイルミナティであったり、フリーメイソンであったり、金融系を牛耳ってきたロスチャイルドです」としており(松久 2020a: 454/648)、コロナ禍の中で、「宇宙意識との融合」とワクチンによる「支配・統合」の対立という図式が、精神世界の中で成立したようにも見える。

しかし、このような考え方は、コロナ禍で初めて出てきたというわけではない。田中聡はそれ以前より、「陰謀論の世界では、すべてがつながっている。(中略)ワクチン注射は、たんに副作用が怖いというような不安の対象ではなく、その注射を広める人々や業界の企みにかかわる陰謀論的なコンテキストのなかでとらえられるようになるのである」としており(田中 2014: 130/2552)、コロナ禍によって精神世界に新しい考え方が入ってきたということではなく、「起こるすべての事象は天の導きであり、

48) 本質的に全てをありのまま受け入れること(内田 2020: 86)

49) Jへの聞き取りにもとづく(2020年11月19日)。

魂の学びのために起こっている」とする精神世界の思想（有元 2011：162）と「社会の出来事の背景に何らかの策謀があったのではないかと解釈する」陰謀論（田中 2014：6/255）との相乗効果によって、こういった考え方が生み出されたとも言える。

### 3 精神世界とコロナ禍

マスク着用拒否、ワクチン接種拒否、陰謀論、「宇宙意識との融合」と「支配・統合」の対立構造などから総合的に検証すると、精神世界の中にはコロナ禍に対して、「現代の社会基準とされている生活のあり方」<sup>50)</sup>とは全く違う受け取り方が存在している、ということが分かる。

板野肯三<sup>51)</sup>は、ウィルスにも魂が宿っており、人間の波動に合わせて人体の中で凶暴化するとし（板野2020：1056/2147-1068/2147）、「ただ、自分だけが増えていきたいという思いというのは、低次の動物的な衝動にもとづくものである。こういう思いでいけば（中略）宿主の人間の方が死んで、結果として、ウィルスも絶滅することになるかもしれない」と、ウィルスと人間の精神性の程度が、相互に影響し合い、生かし合う価値観の重要性を指摘し、「もしも、ウィルスの精神性が進化して、人間の中で、意味ある活動をして、お互いに、ウィン-ウィンのような協力関係が出来上がると、切っても切れない関係になって、深い絆が生まれるかもしれない」としている（同：1427/2147）。また、矢作直樹<sup>52)</sup>は並木良和<sup>53)</sup>との対談で「すべての物に意識があるっていうことで考えないといけない」とし、並木もこれを受けて、「コロナウィルスも意識を持っている、故にコロナ

50) 本論文では国の定めるコロナウィルスへの対応——「飲酒を伴う懇親会等はしない」、「大人数や長時間に渡る飲食はしない」、「マスクなしでの会話はしない」、ワクチン等の開発研究を拡大する——などをもって社会基準とした。厚生労働省「新型コロナウイルス感染症について」([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html))、閲覧日2020年12月16日。

51) 筑波大学システム情報工学研究科長、同大学名誉教授、博士（理学）。

52) 元東京大学医学部救急医学分野教授、東大名誉教授、博士（医学）。

53) スピリチュアル・カウンセラー。

ウィルス意識とコミュニケーションを取る事で、活動を、沈静化させることもできる（中略）僕たちが平和な気持ちで話しかけてあげることが大切」だとしている（並木 矢作 2020：234/768-253/768）。また松久は、「ウィルスを愛と感謝で受け入れる必要がある」とした上で、「ウィルスがあったおかげで、私たち人類は進化してきた」と言う（松久 2020a：288/648）。

彼らの見解は言い換えれば、「コロナウィルスとの友好的な共生」を目指しているとも言える。この傾向はアンケート調査「コロナ禍でのスピリチュアル（セクション3-コロナをどう受け止めるか）」にも現れている<sup>54)</sup>。「コロナウィルスに対して徹底的に感染予防をすべき」と答えた人が8%だったのに対して、「コロナウィルスと共存する道を模索すべき」54%、「恐怖を募らせずに受け入れるべき」12%と、コロナウィルスとの共生を主張する人は6割を超え、さらにこれに「風邪と同じなので特別なことはしない」、「何もする必要はない」といった類似回答を含めると、精神世界関係者の7割強の人が、コロナウィルスに対する特別な感染対策は不要だとしている。

協働組織での聞き取りにおいても、Fは、「自分だけが助かるという気持ちだが、ウィルスへの抵抗の原動力であり、それがある限りウィルスから敵だと認識される」、「本当に人だけでなく生けるもの全てに思いやりを持たば、ウィルスは恐れる相手でないことが分かる」としており<sup>55)</sup>、Hは、「(コロナ禍に)逆らっても、ウィルスはさらに凶悪化していくだけ、人類は目覚めざるを得ない」と話していた<sup>56)</sup>。

しかし、コロナウィルスに感染・発症において亡くなった人もおり、コロナウィルスが共存すべきものであるならば、亡くなった人について、彼

---

54) 2020年12月10日-2020年12月15日「コロナ禍でのスピリチュアル（セクション3-コロナをどう受け止めるか）」、有効回答数102、設問は「あなたはコロナウィルスにどう対応すべきだと思いますか」、「あなたはコロナ禍をどう受け止めていますか」の2問。

55) Fへの聞き取りにもとづく（2020年12月12日）。

56) Hへの聞き取りにもとづく（2020年11月22日）

らはどう説明するのかという疑問が当然出てくる。

並木は、「人は寿命まで死なないと知ることが大切」と言い、これに対して矢作は、(コロナウィルスは死ぬ原因の)「ひとつのきっかけです」と答えている(並木 矢作 2020: 152/768)。彼らは、他の病気や事故で死ぬこともコロナウィルスに感染して死ぬことも、それは寿命が来たからであって、最初から決まっていたことだとする。松久は、現代はエネルギーが動いて次元上昇する時期ではあるが地球の全員が次元上昇する段階にはなく、ふるい分けされないといけないとし、「この新型コロナウイルス騒動から学んだ人、気付いた人は、次元上昇する」、「学べなかった人、気づけなかった人、さらには恐怖と不安、怒りで染まっている人は次元降下」して、「さらにもがく地球を体験する」とし(松久 2020a: 203/648)、次元上昇できる人は全体の15%しかいないとしている。このような地球でもがく体験をするよりは新型コロナウイルスにかかって「死んでしまった人は、それは祝福」であり、「中途半端な地球をやるよりも、もう一度魂をリセット」できるチャンスだと説明している(同: 227/648)。

Gも、「新しい世界の構築の前には徹底した破壊があるのは当然。この3年間で何人生き残れるかは分からない。死ぬと決まっている人は死ぬが、利己的エネルギーを増幅させれば、死ぬようにセットされていなくても死ぬことになる」と、現在の地球(世界)が変革期にあり、前もって死ぬことが決まっている人もいれば、自分だけが生き残りたいというマイナスのエネルギーを発することによって、死ぬ人も出てくるということだった<sup>57)</sup>。

彼らにとって、現代の地球(世界)は変革期で、その試練の1つがコロナ禍であり、これをどのように受け入れるのか、彼らの言葉を借りれば、「生き延びたいという利己的な思い」を持つのか、「コロナウィルスも受け入れ共に生きる愛」を持つのか、という選択の時期だということになる。アンケートにおいても、コロナをどう受け止めるかという質問に対して、「人類全体が意識変革を促されている」と答えた人が67%（「人類が意識変革を後押しされている」1%、「変化の時」2%を含む）、「人類が大いな

---

57) Gへの聞き取りにもとづく(2020年12月12日)。

る存在に試されている」の10%と合わせると、8割弱の人が、現在は地球（世界）の変革期であると受け止めており、聞き取りやドキュメント調査と合わせて考えると、多数の精神世界関係者が、現代を「変革期」と受け止めていると言える。

#### 4 小括

これまでの調査から、精神世界関係者の中では、「コロナ禍は宇宙意識との融和への変革期。ウィルスとは共存していくべきなので、マスクもワクチンも不要」という考え方をする人は少なくないと言える。ここから、第2章で保留にしたマスク着用から見たウィルス感染と精神世界の関係についても、「精神世界関係者の中には、ウィルス感染を防ぐ必要がないと考えている人が一定数以上含まれている」と言えよう。

つまり、精神世界は、コロナ禍を否定的に捉えず、変革の好機と捉え、肯定的に（もしくは好意的に）受け止める思想を持つ人々を内包していると言っていることができるのである。

### 第4章 コロナ禍における宗教団体

「精神世界関係者が、コロナ禍をどのように捉えているか」という問いについての答えは、前述した通りである。最後に「霊性を扱っている」点では、同じ立ち位置にある宗教団体の現状と、彼らがコロナ禍についてどのように捉えているかを確認し、両者の比較から双方の思想の違いについて検討を行った。

#### 1 伝統宗教

2020年4月からの緊急事態宣言中に筆者が行った調査では、キリスト教会の半数以上が、礼拝を中止（もしくはネット配信への切り替え）し、教会を閉め<sup>58)</sup>、神社では鈴紐の撤去や手洗い場の使用禁止（写真6、写真7、

58) 筆者自宅半径5km圏内の教会45カ所への聞き取りにもとづく（2020年4月21日）。



(写真6 筆者が撮影)

写真8)<sup>59)</sup>、神職のみの厄除け祈祷など<sup>60)</sup>、様々な感染防止の工夫がなされていた。

この期間中も寺院は、比較的閉鎖されているところが少なく<sup>61)</sup>、集まったの法要や講演会等は中止されているところはあったものの、施設に目立った感染防止対策がなされているところは少なかった。これは調査した寺院が、普段から出入り自由でないことや、定期的な集会を行っていないことも要因の1つと考えられる。

浄土真宗寺院の院代L(40代 男性)は、「仏教はそこに所属していることに安心感を与え、どんな状態であっても、乱されない心を養う涅槃寂静の教えに価値がある」とし、「コロナ禍が厄災どうかは特別な問題ではなく、人が社会の規範に則り淡々と心を平安に過ごせるようにしていくことが大切」、「コロナ禍は、公衆衛生や医療の問題で、宗教の入り込む余地はもともとない」と話していた<sup>62)</sup>。

59) 現地調査、筆者自宅半径5km圏内の神社29カ所(2020年4月30日-5月23日)。

60) 多井畑厄除八幡(兵庫県)社務所担当者(男性)への聞き取りにもとづく(2020年6月11日)。

61) 現地調査、筆者自宅半径5km圏内の寺院21カ所(2020年4月23日-4月27日)。

62) 浄土真宗 院代Lへの聞き取りによる(2020年12月14日)。



(写真7 筆者が撮影)



(写真8 筆者が撮影)

キリスト教（プロテスタント）の多くの信徒をかかえる教会の牧師M（40代 男性）は、キリスト教全体で WEB 礼拝が主流になっていくことに対して「(WEB 礼拝が当たり前になったのは) 説教中心であったプロテスタントの礼拝体系が生み出してしまったものであり、もっと5感を使った礼拝を考えていかなければならなかった」とし、「高齢者にとっては WEB 礼拝ができたことで良い面もあったとはいえ、逆に言えば、これまで高齢者の信徒に何もしてこなかったことが露呈したということにもなる。ここにきて教会の歪みが顕在化してしまった」、「コロナ禍を神との関係で捉えることはないが、教会のあり方が根本的に問われている時である」と問題意識が教会内に芽生えてきており、プロテスタント教会全体で礼拝のあり方についての思索がなされ始めていると話していた<sup>63)</sup>。

## 2 新宗教

精神世界と根を同じくする GLA（伊藤 2018：113-114）は、もともとインターネットを使った布教を行っており、いち早く信者の心のケア・研

63) プロテスタント教会 牧師Mへの聞き取りによる（2020年12月15日）。

鑽のための「『一日一葉』特別セミナー」などを行い<sup>64)</sup>、ネットのインタラクティブ性を十分に発揮できるシステムを用いて「インターネットを感じさせないで、自分の変化が見える研鑽を可能」<sup>65)</sup>にしていた。また、同宗教団体の施設を訪れることは可能かという質問に対しては、「会館の感染防止は完璧」という回答を得ている<sup>66)</sup>。9月の段階では、100人規模の「自分を知る力ーアフターコロナの時代を開き、次なる50年の礎となる」と題したセミナー（八ヶ岳伝道者研鑽セミナー）が行われており<sup>67)</sup>、これ以外にも、「万全のコロナウィルス対策」を前面に打ち出した各種集会が開催された<sup>68)</sup>。また、コロナ禍については、「2月の新型コロナウイルス感染の初期段階から、ウィルスの特質を見極め、（中略）コロナ禍というカオス（中略）から、GLA が次の次元に飛躍する土台をつくってゆかれる先生ー」と教主の先見性と結びつけて語られている<sup>69)</sup>。

精神世界の一部であるスピリチュアリズムに似た世界観を持つ霊波之光では<sup>70)</sup>、コロナに関する情報は会報に会館の開館時間が記される程度で<sup>71)</sup>、特にコロナ禍に対する特別な見解を出していない。班長のN（40代 女性）は、「社会情勢に合わせた常識的な行動が必要」とし、「文明が発達する前は、もっと人の心はもっと清かった」、「今はこれを浄化して元に戻して、世界平和を実現していく活動をする時期」、「1人よりも10人、10人よりも100人の祈りが今は詰まれるべき時期なので、お繋がりしていなくても（入信していなくとも）霊波を求めれば浄化されて人のために祈れるようになっていく」と、コロナ禍を神と直接結び付けることはしていなかったが、それをどう捉えるのかについての重要性を説い

64) GLA 公式「一日一葉研鑽」WEB：要 ID/PASS ([https://www.gla.or.jp/ichini\\_chiichiyou-sp/](https://www.gla.or.jp/ichini_chiichiyou-sp/))、2020年6月22日閲覧。

65) GLA 近畿本部職員（50代 女性）への聞き取りにもとづく（2020年6月23日）。

66) 同上（2020年12月11日）。

67) 『G. 第50巻12号』（GLA 総合本部出版局）24-43。

68) 『G. 第50巻10号』34。

69) 『G. 第50巻12号』27。

70) 手引き書の階層図による——『霊波の光の信仰』（宗教法人霊波の光）11。

71) 『THE REIHA 第21巻11号』（宗教法人霊波之光）68。

ていた<sup>72)</sup>。

### 3 その他

宗教全体では、兵庫県で「Pray 祈 世界平和 祈りの幕開け」と題し、仏教・大本・神道・天理教・イスラム教・キリスト教から聖職者らが一堂に集まり、コロナ禍にある世界の平和のために合同で祈りが行われたり<sup>73)</sup>、カトリック中央協議会が、ローマ教皇が諸宗教へ連携を呼びかけた文書を邦訳公開するなどの動きも見られた（教皇庁諸宗教対話評議会 世界教会協議会 2020）。

### おわりに

精神世界と宗教を区別し、そこに境界線を引くことは難しい。しかし、ことコロナウィルス、コロナ禍についての姿勢に限定して言えば、両者には明確な違いがある。

特に霊性にかんする協働組織と宗教団体を比較した際、宗教団体ではコロナを厄災と否定的に捉えるか、何らかのきっかけとして肯定的に捉えるかの違いはあっても「コロナウィルスの感染は防止すべきものである」という点では一致しており、肯定的に捉えていても、悪い状況をどう良く受け止めるかという消極的肯定論にとどまっている。これに対して、霊性にかんする協働組織では、進んでコロナウィルスと共存しよう（極端な例では積極敵に感染しよう）と考えている人が大半で、現時点においては、根本的に両者の立ち位置の違いが際立つ結果となっている。

これら協働組織の徹底した現状の肯定と、そこに変革を見いだそうとする姿は「日本の新宗教の際立った特徴」とされる「現世に対して否定的な姿勢を取らない、あるいは否定が弱い」（島藺 2020：219）という部分に

---

72) 霊波之光関西支部西宮班長Nへの聞き取りによる（2020年12月15日）。

73) パンフレット「Pray 祈 世界平和 祈りの幕開け」（NPO 法人神戸平和研究所）  
神戸ポートピアホテル（2020年11月11日）。

重なる部分もあり、彼らが、さらに新しい形態の宗教団体となっていく可能性が無いとはいえない。しかし現状においては、協働組織の世話人は、リーダーではなく、構成している会員も別々の思想を持って対等な立場で参加しており、現在存在しているような形態での宗教団体の成立は、想定しにくい。

精神世界という呼び方が市民権を得てから約40年になるが、今回のコロナ禍によって精神世界の独自性・特殊性の一端が明らかになってきた。それゆえに、伝統宗教とも新宗教とも違う形態を持つ「霊性にかんする協働 組織」についての継続調査は、精神世界だけでなく、今後の日本の霊性思想がどう変わっていくかを考えるにあたり重要性を増している。

## 参考文献

- 有元裕美子 2011『スピリチュアル市場の研究』（東洋経済新報社）
- ダリル・アンカ 安達冬美2017『未来を動かすバシヤールが新たに語る「最高の人生」
- 板野肯三 2020『地球人のための超ウィルス入門』Kindle 版（アセンド・ラピス）
- 伊藤耕一郎 2018「精神世界の再考察——宗教との関係から」『関西大学 哲学第36号』（関西大学哲学会）
- 伊藤耕一郎 2020「精神世界を問い直す」『千里山文学論集第100号』（関西大学文学研究科）
- 内田涼子 2020『愛もお金も引き寄せる心と宇宙の法則』（ギャラクシーブックス）
- 日本神霊学研究会 2019『神霊学用語事典』（展望社）
- 教皇庁諸宗教対話評議会 世界教会協議会 日本カトリック司教協議会諸宗教部門翻訳 2020「諸宗教の連帯による傷ついた世界への奉仕 コロナ危機とその後における省察と行動を求めるキリスト教の呼びかけ」（カトリック中央協議会）
- ジュンコ・グッドイヤー 2017『アメリカで感じる静かな「パープル革命」の進捗とトランプ大統領誕生の理由（シャスタインターナショナル）
- 岡崎梓織 2018「滋賀県における民俗宗教的聖地の展開」（滋賀県立大学 地域文化学科 市川研究室 平成二九年度卒業論文）
- 坂本政道 2009『アセンションの鍵』（ハート出版）

島菌進 2020『新宗教を問う』（ちくま新書）

しろくま 2020『宇宙と自分と地球を繋いでヒーリングしよう!!』（Kindle ダイ  
レクトパブリッシング）

鈴木ひろえ 2020「シンギング・リン」『セラピスト vol. 111』10月号（BAB  
ジャパン）

田中聡 2014『陰謀論の正体!』Kindle 版（幻冬舎）

並木良和 矢作直樹 2020『新型コロナウイルスへの霊性と統合』Kindle 版（青  
林堂）

バシヤール×安藤美冬 2017『未来を動かす』Kindle 版（ヴォイス）

福田純子 2014（紙書籍2010）『笑顔で、活きる』Kindle 版（KADOKAWA）

船瀬俊介 2018（紙書籍2014）『ワクチンの罠』Kindle 版（イースト・プレス）

松久正 2020a『地球人類よ、新型コロナウイルスを浴びなさい!』Kindle 版  
（ヒカルランド）

松久正2020b『イルミナティとフリーメイソンとドクタードルフィン』（ヒカル  
ランド）

2020『G. 第50号10巻』10月（GLA 総合本部出版）

2020『G. 第50号12巻』12月（GLA 総合本部出版）

改訂・第5版『霊波の光の信仰』（宗教法人霊波之光）

2020『THE REIHA 第21巻11号』11月（宗教法人霊波之光）